

仙台市文化財調査報告書第40集

仙台市 高速鉄道関係遺跡調査概報 I

昭和 57 年 3 月

仙台市教育委員会
仙台市交通局

仙台市 高速鉄道関係遺跡調査概報 I

昭和 57 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会
仙 台 市 交 通 局

序 文

仙台市は東北の中核都市として益々の発展を遂げております。仙台都市圏交通の根幹となる仙台市高速鉄道南北線は21世紀に向けて躍進する仙台の原動力として大きな役割を担い、昭和60年度開業を目指して建設工事が開始されています。このような状況の中で、祖先より受け継がれてきた文化遺産が消滅しつつあり、これら祖先の文化遺産をいかに保存し、次代に継承していくかが文化財保護行政の問題であります。

仙台市教育委員会では、昭和54年に高速鉄道南北線周辺の分布調査を実施し、昭和56年度は下ノ内・六反田・山口遺跡の発掘調査、五本松窓跡の分布調査を実施いたしました。下ノ内遺跡においては、縄文時代から平安時代以降までの竪穴住居跡等の各種の遺構・遺物、六反田遺跡では、平安時代の竪穴住居跡・溝跡、縄文時代の遺物、山口遺跡では、縄文時代、弥生時代の遺物等が発見され、大きな考古学的成果を上げております。本書は昭和56年度の調査をまとめ上げました調査の概要であります。

最後に、調査に際して御協力を賜りました仙台市交通局高速鉄道本部及び関係各位の皆様方に御札を申し上げるとともに、今後とも仙台市文化財行政への御理解と御協力を切に念願する次第であります。

昭和57年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井 素

例　　言

1. 本書は仙台市高速鉄道南北線関係遺跡に係る下ノ内遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、五本松
窯跡の昭和56年度分の遺跡発掘調査及び分布調査の概報である。

2. 本書の作成は次のとおり分担した。

本文執筆 I～Ⅲ……篠原信彦

IV……佐藤隆 荒井格

V……吉岡恭平

VI……結城慎一

遺構トレース……結城慎一 藤沢敦 古屋敷則雄

土器実測・トレース……佐藤隆 佐藤裕 吉岡恭平 高橋勝也 藤沢敦 毛利貴洋 吉

屋敷則雄 後藤脩 佐藤博 松本幸子

石器実測・トレース……荒井格 枝沢清利 藤田淳 吉田秀寧

土器写真撮影……佐藤隆 佐藤裕

石器写真撮影……荒井格 佐藤裕 高橋勝也

編集は篠原信彦 佐藤隆 佐藤裕 吉岡恭平 荒井格 高橋勝也が行った。

3. 本書の第1図は国土地理院発行の5万分の1の地形図(仙台)を使用したものである。

4. 本書中の上色については「新版標準土色帳」(小山・佐原:1970)を使用した。

5. 本書では、下ノ内遺跡は新発見の遺跡であるため字名より遺跡名を設けて扱った。

本文目次

序文	
例言	
I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	4
III 下ノ内遺跡	5
1. 遺跡の立地	5
2. 調査方法	5
3. 遺跡概要	5
IV 六反田遺跡	26
1. 遺跡の立地	26
2. 調査方法	26
3. 遺跡概要	26
V 山口遺跡	34
1. 遺跡の立地	34
2. 調査方法	34
3. 調査概要	34
VI 五木松塙跡分布調査	40
1. はじめに	40
2. 遺跡の立地	40
3. 現状と範囲	40
4. 地点概要	40
5. 学術的所見	42
6. 高速鉄道建設工事との関連	42

図版目次

第1図 高速鉄道路線図と周辺遺跡	2	下ノ内遺跡	
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	3	第4図 全体図	7
第3図 下ノ内、六反田遺跡グリッド 配置図	6	第5図 1号住居跡	8
		第6図 4号住居跡	9

第7図	出土遺物(1).....	10
第8図	6号住居跡.....	12
第9図	14・15号土壤.....	13
第10図	出土遺物(2).....	14
第11図	出土遺物(3).....	15
第12図	出土遺物(4).....	16
六反田遺跡		
第13図	全体図・基本層序.....	27
第14図	1号住居跡.....	28
第15図	出土遺物(1).....	29
第16図	1号掘立柱建物跡.....	29
第17図	出土遺物(2).....	30
第18図	出土遺物(3).....	31
第19図	出土遺物(4).....	32
山口遺跡		
第20図	グリッド配置図・全体図・ 基本層序.....	35・36
第21図	出土遺物.....	37
五本松窯跡		
第22図	五本松窯跡分布図.....	41

写 真 目 次

下ノ内遺跡		
写真1	調査前近景.....	17
写真2	平安時代以降の遺構全景.....	17
写真3	1号住居跡全景.....	17
写真4	1号住居跡内遺物出土状況.....	18
写真5	2号住居跡全景.....	18
写真6	古墳時代の遺構全景.....	18
写真7	4号住居跡全景.....	19
写真8	1号竪穴遺構全景.....	19
写真9	縄文時代の調査区全景.....	19
写真10	6号住居跡内遺物出土状況.....	20
写真11	6号住居跡全景.....	20
写真12	12・13号土壤全景.....	20
写真13	14号土壤全景.....	21
写真14	15号土壤全景.....	21
写真15	16号土壤全景.....	21
写真16	出土遺物(1).....	22
写真17	出土遺物(2).....	23
写真18	出土遺物(3).....	24
写真19	出土遺物(4).....	25
六反田遺跡		
写真20	基本層序.....	27
写真21	1号住居跡全景.....	28
写真22	1号住居跡遺物出土状況.....	28
写真23	出土遺物(1).....	29
写真24	出土遺物(2).....	33
山口遺跡		
写真25	3層調査終了全景.....	38
写真26	1号溝全景.....	38
写真27	3～8号溝全景.....	38
写真28	出土遺物.....	39
五本松窯跡		
写真29	五本松窯跡E地点の現状.....	42

I. 調査に至る経過

仙台市高速鉄道（地下鉄）南北線は、仙台都市交通圏の根幹として、昭和60年度開業を目指して建設が行われている。南北線は仙台駅を中心に南北に長く、七北田から泉崎に至る総延長14.35kmのルートである。

この南北線のルート及びその隣接地には、数多くの遺跡が分布する。仙台市北部の台ノ原・瓦山地区には、五本松窯跡、堤町窯跡等、南部の富沢・大野田地区には泉崎浦遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、伊古田遺跡等がある。特に南部の長町を中心とした地域は、遺跡が多く分布しており、また、六反田・山口遺跡の調査によって、沖積地における重層構造の遺跡の存在が明らかになった。のことより、周知の遺跡として登録されている所以外にも造構・遺物が発見されることが十分考えられる。

そこで、仙台市教育委員会では、仙台市交通局高速鉄道建設本部と再々にわたり協議を行い、瓦山地区では駅用地として埋め立てられる五本松窯跡、南部の富沢・大野田地区では開削工法で建設される鍋田駅以南の全路線及び関連する道路等の調査を実施することとなった。

昭和56年4月より仙台市富沢字下ノ内、大野田字五反田地区に建設される迂回道路の西側半分の調査を開始した。同年8月より富沢・長町土地区画整理組合地内の公園予定地部分に建設される高速鉄道本線の調査を実施し、同年9月より、高速鉄道に隣接して六反田遺跡内に建設される共同住宅地部分の調査、同年11月に、瓦山駅建設に伴って埋め立てられる五本松窯跡の分布調査を実施した。

各遺跡における調査体制は以下のとおりである。

調査主体 仙台市教育委員会 仙台市交通局

調査担当 仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係

1. 仮称下ノ内遺跡（以下、ドノ内遺跡とする。）

所在地 仙台市富沢字下ノ内

調査期間 昭和56年4月17日～昭和57年1月13日

調査面積 約1,400 m²

担当職員 佐藤隆 佐藤裕 篠原信彦 古岡恭平 高橋勝也

2. 六反田遺跡

所在地 仙台市大野田字五反田

調査期間 昭和56年9月7日～昭和57年1月18日

調査面積 450m²

担当職員 佐藤隆 荒井格



番号	地名	登録番号
①	五所松原站	C-403
②	南光田塩站	C-405
③	古川原二丁目遺跡	C-262
④	荒谷一本杉遺跡	C-402
⑤	山田町地質遺跡	C-170
⑥	鳴門市塩跡	C-401
⑦	荒巻経造塩跡	C-434
⑧	猪俣温泉分寺跡	C-419
⑨	荒巻山腰穴群	C-028A
⑩	荒巻山腰穴群	C-028B
⑪	尾々崎城跡	C-504
⑫	宗禪寺構穴群	C-033
⑬	坂井遺跡	C-233
⑭	鬼塚古墳	C-002
⑮	遠見塚古墳	C-001
⑯	南小舟古墳	C-102
⑰	西谷原遺跡	C-105
⑱	郡山遺跡	C-104
⑲	東岡八幡古墳	C-017
⑳	柳原古墳	C-007
㉑	三神峯遺跡	C-106
㉒	高町古墳	C-008
㉓	高崎遺跡	C-202
㉔	御家原遺跡	C-198
㉕	西原古墳	C-014
㉖	大野田遺跡	C-112
㉗	六反田遺跡	C-192
㉘	伊吉田遺跡	C-196
㉙	山口遺跡	C-233
㉚	春日社古墳	C-039
㉛	鳥居塚古墳	C-043
㉜	玉の壇古墳	C-038
㉝	上野遺跡	C-108
㉞	北浦遺跡	C-131
㉟	山田上ノ台遺跡	C-013
㉟	安久良古墳群	C-013
㉟	東遺跡	C-135

(注) 路線を中心にして約2kmをかぶる道路と仙台市の調査した主要な遺跡を掲載した。なお、駅名は假名である。

第1図 高速鉄道線と周辺遺跡



造跡番号	造跡名稱	所 處 時 期	造跡番号	造跡名稱	所 處 時 期
C-197	①下 内 壁 鋸	平安、古墳、圓文(中、後)	C-127	芦 口 交 道 鋸	平安
C-197	⑥反曲 並 鋸	奈良、古墳、秀貞、圓文(中・後)	C-112	大 井 交 道 鋸	圓文(後)、奈良、平安
C-233	山 口 並 鋸	平安、奈良、古墳、秀貞、圓文(中・後)	C-152	鐵道敷設A道路鋸	奈良、平安
C-607	砂 球 古 墳	古墳	C-153	芦 口 並 道 鋸	
C-008	葛 口 古 墓	古墳	C-155	原 木 通 鋸	
C-014	渡 隆 古 墓	古墳	C-156	高 町 安 流 鋸	
C-015	金 錐 沢 古 墓	古墳	C-195	奈 佐 上 仁 保 鋸	奈良、平安
C-017	金 土 岩 古 墓	古墳	C-196	伊 古 道 鋸	奈良、平安
C-031	土 手 内 構 六 鋸	奈良、平安	C-198	鶴 來 通 鋸	古墳、奈良、平安
C-038	王 の 横 古 墓	古墳	C-201	高 清 氷 除 鋸	奈良、平安
C-039	春 日 社 古 墓	古墳	C-202	泉 斷 道 鋸	圓文(後)、奈良、平安
C-040	五 互 古 墓	古墳	C-263	砂 球 並 敷 設 鋸	平安
C-043	鳥 屋 墓 古 墓	古墳	C-396	天 保 通 道 鋸	圓文(後)、奈良、平安
C-349	瓦 反曲 式 武 扇	古墳	C-422	土 手 内 壁 鋸	平安
C-052	五 互 木 杆 盒	古墳	C-520	高 江 斧 鋸	奈良、平安、中世
C-106	三 神 墓 通 鋸	旧石器、圓文(早、前)	C-858	元 葛 古 碑 鋸	

第2図 遺跡の位置と周辺遺跡

3. 山口遺跡

所在地 仙台市富沢字中谷地

調査期間 昭和56年8月25日～12月28日

調査面積 約780m²

担当職員 吉岡恭平 高橋勝也

4. 五本松窯跡

所在地 仙台市台ノ原森林公園、台ノ原五丁目

調査期間 昭和56年11月2日～11月9日

調査担当 結城慎一 古窯跡研究会（代表：渡辺泰伸）

調査協力 東北財務局 仙台営林署 宮城県警察本部

II. 遺跡の立地と環境

山口遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡は、東北本線長町駅より南西2kmの仙台市富沢・大野田に位置している。この富沢・大野田地区は、沖積平野である「宮城野海岸平野」に含まれ、微地形的には「郡山低地」に位置している。郡山低地は名取川が形成した自然堤防、後背湿地等、平野部としての典型的な地形がみられる。遺跡は名取川左岸の自然堤防上に立地し、山口遺跡と六反田・下ノ内遺跡の間を名取川の一支流である旧荒川が曲流し、頻繁に氾濫している。

この地区は仙台市内でも遺跡が数多く分布している。昭和51～53年度に調査された六反田遺跡は沖積地においては県内でも最も古い縄文時代中期中葉（大木8b式）の竪穴住居跡や後期初頭の竪穴住居跡、古墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡等が発見された。昭和53年度に調査された山口遺跡では縄文時代中・後期の土壙等、平安時代の竪穴住居跡等が発見され、両遺跡とも重層構造の遺跡である。これらのことより、両遺跡周辺は縄文時代中期中葉から平安時代以降までの遺構・遺物が発見される可能性は高く、かつ重層構造であると考えられる。

その他の周辺遺跡は、縄文時代早期～中期の遺構・遺物が発見された三神峯遺跡や縄文時代後期の遺物を出土する泉崎浦遺跡、大野田遺跡、天袋Ⅱ遺跡などがある。古墳時代の遺跡は数多く、西多賀周辺には裏町古墳、砂押古墳、金洗沢古墳等、大野田には鳥居塚古墳、王の塚古墳、春日社古墳、昭和56年6月に調査した大野田1・2号墳等がある。奈良・平安時代は調査例では六反田・山口遺跡があり、その他遺跡も多いと思われる。中世には新荒川の南に富沢館跡がある。

以上のように富沢・大野田地区には縄文時代中期中葉から中世までの遺跡が多く分布している。

III. 下ノ内遺跡

1. 遺跡の立地

下ノ内遺跡は長町駅の南西2kmに位置し、名取川下流域の自然堤防上に立地する。直ぐ北側を名取川の一支流である旧荒川が東流し、標高は12mである。東隣に六反田遺跡、南隣に伊古田遺跡、旧荒川の北側に山口遺跡が接するように位置している。

2. 調査方法

南北に走る高速鉄道路線の西側工事用道路の基準杭No.42・43を基準として、迂回道路西側に3×3mのグリッドを東西軸(A～R)、南北軸(1～39)に設定して調査を実施した(第3図)。当初、登録されている遺跡の範囲外であったため、調査区内に3×6mのグリッドを8個設定して試掘を行った。その結果、基本層位第Ⅲ層上面において、溝、ピットが検出されたため、重機により調査区全域の耕作土を排除した。

3. 調査概要

調査によって検出された遺構は平安時代以降、古墳時代、縄文時代の3つの時期に分けられる。

A. 平安時代以降の遺構・遺物 (第4・5・7図)

第Ⅲ層上面及び水田床土直下において検出され、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙、溝跡、ピット等がある。

竪穴住居跡 水田床土直下の第Ⅳ層上面で2棟検出された。1号住居跡はA・B-3～5グリッドに検出され、東西4.4m、南北4.3mの方形プランで深さ約40cmを測る。堆積土は8層に大別され、床面は平坦で軟かい。周溝は南壁、西壁、北壁の一部に幅10～18cmで検出され、深さ約15cmを測る。床面上より18個のピットが検出され、そのうち柱穴と考えられるのはP₁、P₂、P₁₀、P₁₄、P₁₅がある。P₁・P₁₅は焼土・灰が堆積し、一度埋められている。カマドは東壁中央部北寄りに構築され、煙道は奥壁より東に1.4m延び、先端に煙り出しが付いている。遺物は床面上及びピット内より土師器甕(第7図4・7)・壺、須恵器壺・甕、鉄製品が出土し、堆積土1層より赤焼土器(第7図1・2)、須恵器蓋、土師器片が出土した。

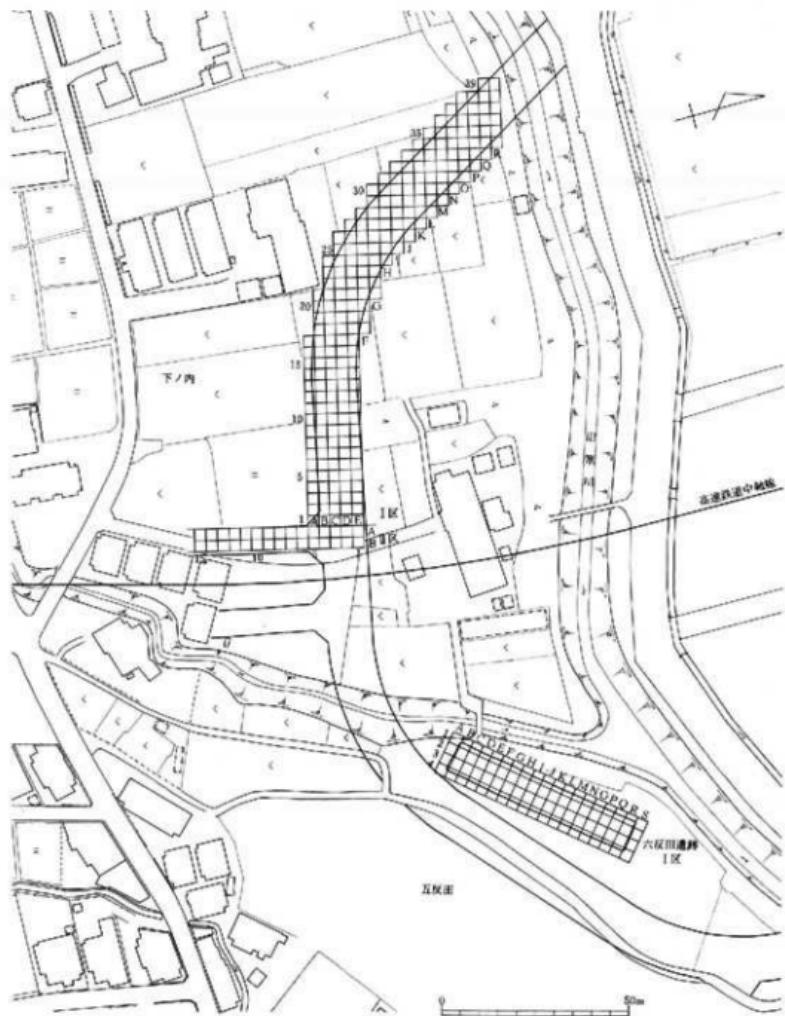
2号住居跡は、1号住居跡の北隣に検出され、東西5.1m、南北1.8m以上で、大半が調査区外に延びている。プランは方形を呈すと考えられ、深さ約20cmを測る。床面は平坦で堅い。周溝、柱穴は検出されない。遺物は床面及び堆積土より土師器甕(第7図6・8)・壺、須恵器壺・高台付壺、鉄製品が出土した。

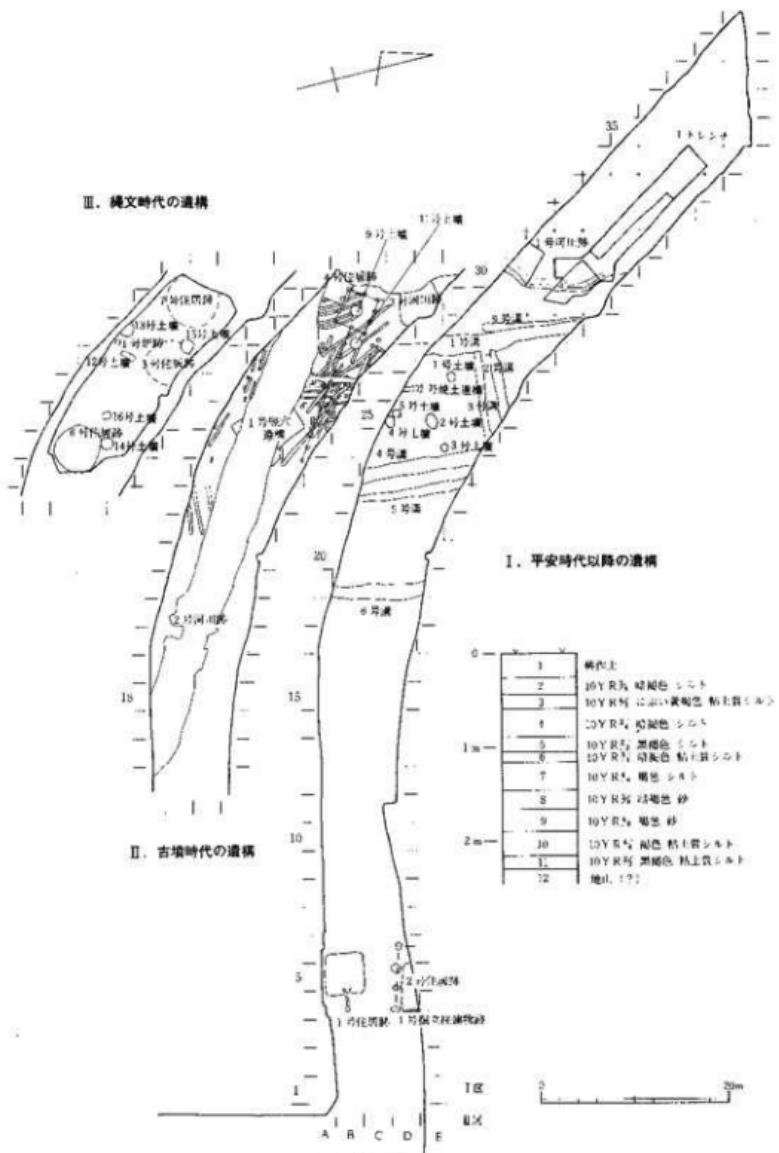
掘立柱建物跡 1号住居跡と2号住居跡の間に検出された1号掘立柱建物跡で、2号住居跡に切られている。東西3間(総長6.6m)、南北1間以上の建物跡で、2号住居跡同様調査区外

に延びる。柱穴は一辺60~80cmの隅丸方形の掘り方を有し、柱痕跡は直径約20cmである。

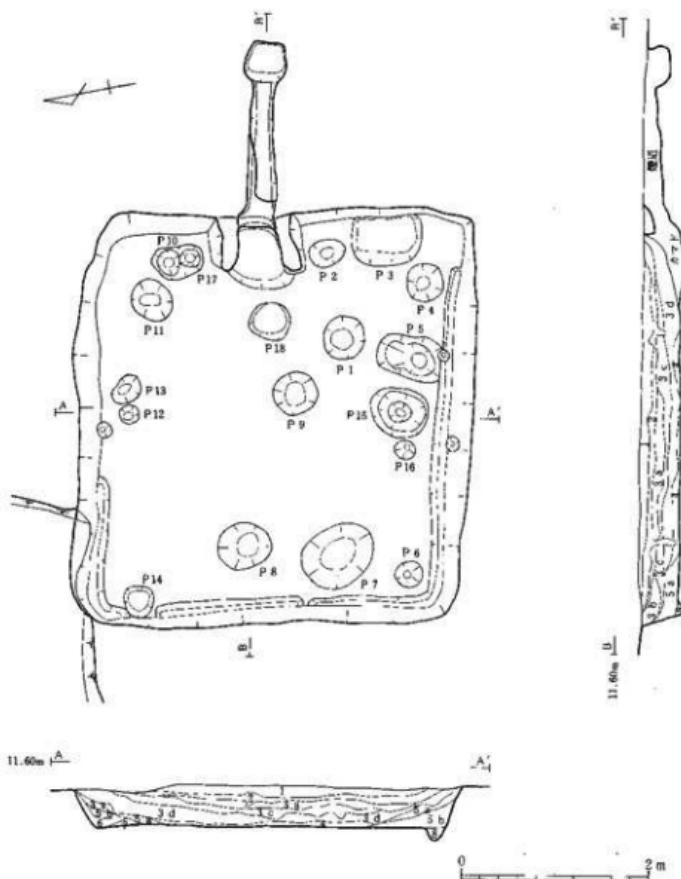
土壤 第Ⅲ層上面で5基が検出された。プランは橢円形、長方形を呈し、大きさは0.8~1.7m、深さ8~24cmを測る。1号土壤堆積土中より青磁片2点が出土した。

溝跡 第Ⅲ層上面で7条検出された。2・3号溝以外はすべて南北方向に走る。溝の幅は0.7





第4図 全 体 図



層位	ナ 色	土 性	理 考
1	7.5Y 灰 灰オリーブ色	シルト	炭化物、焼土、酸化鉄、マンガンを含む
2	2.5Y 灰 灰	シルト	
3 a	10Y 灰 灰	粘土質シルト	炭化物、白色小粒子、マンガンを含む
3 b	10Y 灰 灰	粘土質シルト	粘土質シルト
3 c	10Y 灰 灰	粘土質シルト	粘土を含む
3 d	2.5Y 灰 暗 暗	シルト	塊状、炭化物を含む
3 e	2.5Y 灰 暗 暗	シルト	炭化物を多量に含む
4	N 5% 黑 灰	シルト	炭化物を含む
5 a	10YR 5% 灰 暗 暗	シルト	炭化物、白色、深色小粒を含む
5 b	10YR 5% 灰 暗 暗	シルト	炭化物、燒土を含む
6	10YR 5% 黑 黑	粘土質シルト	炭化物、燒土を含む
7	10YR 黄 湖	砂	

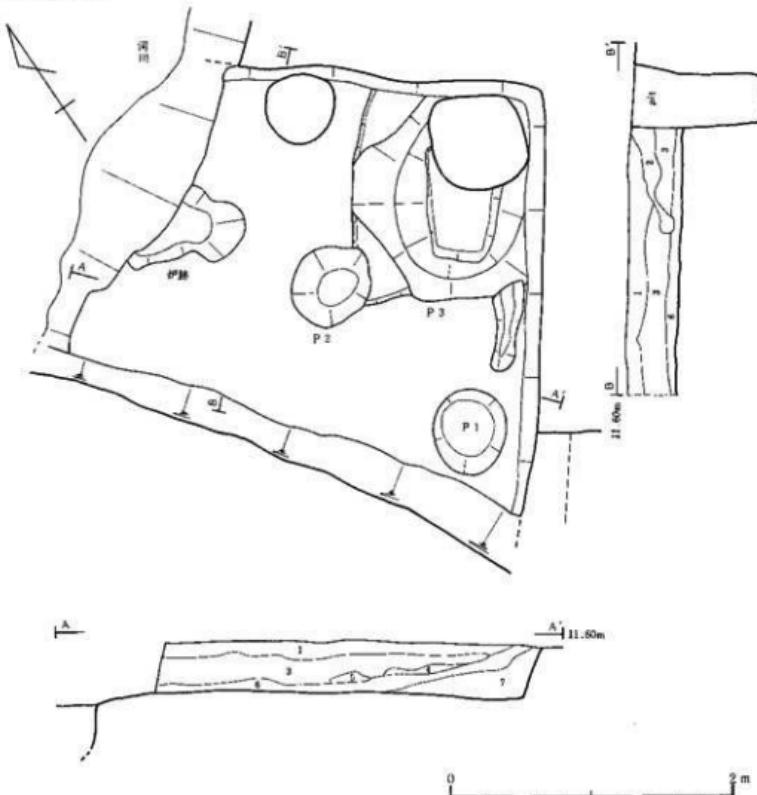
第5図 1号住居跡

～2.1m、深さ8～65cmを測る。断面形は逆台形もしくはU字形を呈す。遺物は土師器片、須恵器片が若干出土した。

その他、河川跡、ピット多数が検出された。

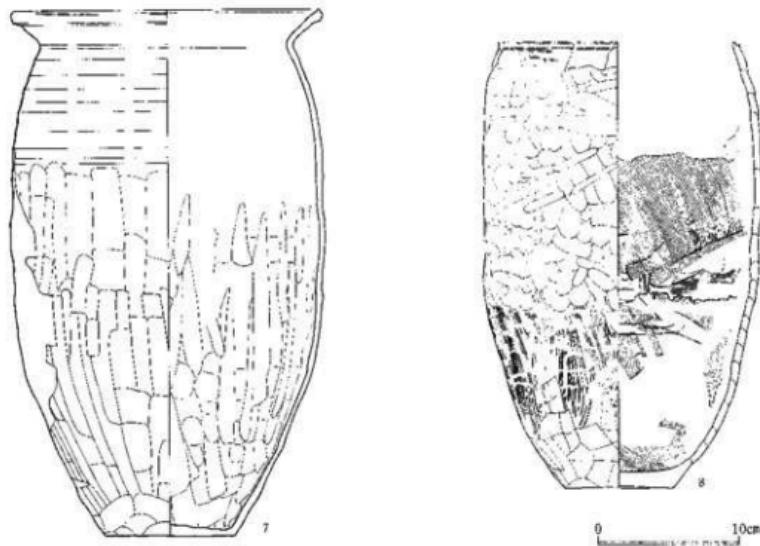
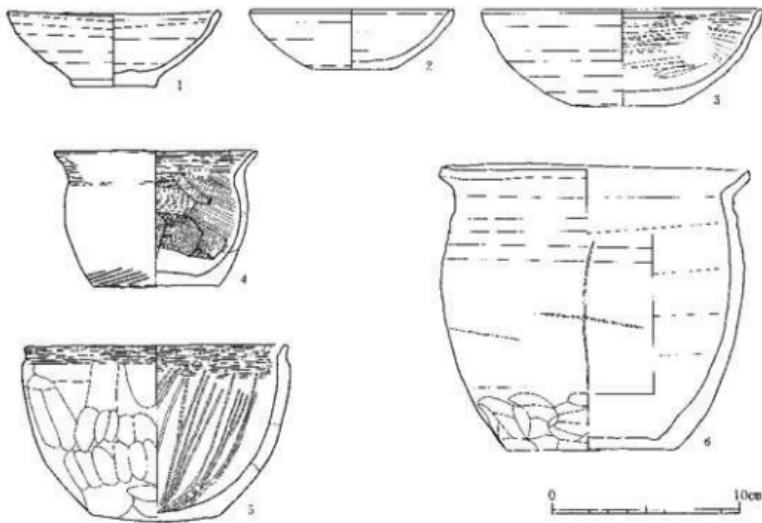
B. 古墳時代の遺構・遺物（第4・6・7図）

第V・VI層上面において検出され、竪穴住居跡、窓穴造構、土壙、小溝状遺構、掘立柱建物跡等がある。



層位	土色	土性	性 質
1	10YR4/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土を含む
2	10YR4/4 暗褐色	シルト	炭化物・黄色・白色粒子を含む
3	10YR5/6 暗褐色	シルト	マンガン・炭化物を含む
4	7.5YR5/6 黄褐色	シルト	マンガン・炭化物を含む
5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物・焼土多量に含む
6	10YR5/6 暗褐色	シルト	炭化物・焼土多量に含む
7	10YR5/6 砂褐色	シルト	

第6図 4号住居跡



第7図 出土遺物(1)

竪穴住居跡 第V層上面で1棟が検出された。4号住居跡は西側が1号河川跡に切られ、南側が調査区外に延びている。現存する規模は東西3.3m、南北3.0mで、深さ40cmを測る。床面は平坦で堅く、炉跡は現存する住居跡の西端に位置する。遺物は床面上及びピット内より土師器坏（第7図5）・壺・甕、須恵器廢が出土した。坏は古墳時代中期の南小泉式期に位置づけられている刈田郡藏毛町宮城館跡上壙2号出土の坏に類似している。

竪穴造構 第V層上面で3基が検出されたがすべて2号河川跡に切られている。1号竪穴造構は東辺3.5m以上、北辺2.4m以上、深さ30cmを測る。床面上及び壁に炭化材・炭化物が現存する部分のはば全面に検出された。カマド・ガ・柱穴は検出されなかった。遺物は石製品2点が出土した。2号・3号竪穴造構は僅かに残存する程度である。

土壤 第V層上面で2基が検出された。いずれも円形プランを呈す。9号土壙は径1.2m、深さ25cm、11号上壙は径1.2m、深さ40cmを測る。断面形はいずれも逆台形を呈す。遺物は殆ど出土しない。

小溝状造構 第V・VI層上面で検出され、幅20~30cm、深さ10~15cmの小溝で東西あるいは南北方向に不規則に走る。遺物は殆ど出土しない。重複関係より最も古い造構である。

その他、2間×3間の掘立柱建物跡、一本柱列状のものが検出されているが、重複関係よりこれらは最も新しく、古墳時代から平安時代の間に位置づけられる。

C. 繩文時代の遺構・遺物（第4・8~12図）

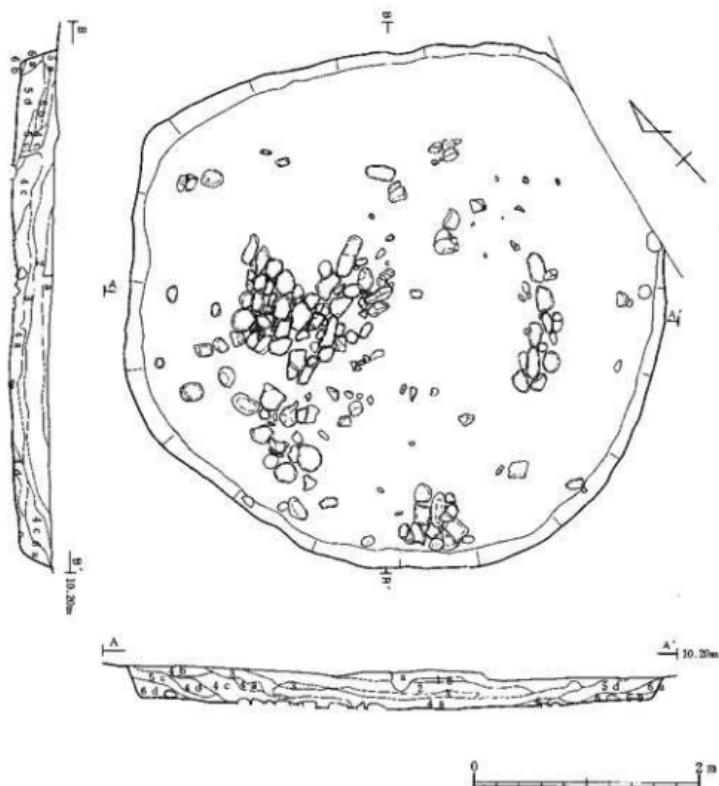
第X~XI層にかけて検出され、竪穴住居跡、土壤、遺物包含層（X・XI層）がある。

竪穴住居跡 4棟が検出されているが調査を実施したのは6号住居跡と1号炉跡だけで、残りの2棟はプランを検出した段階で調査が中断している。検出面は1号炉跡がX層、5~7号住居跡はXI層上面である。

6号住居跡は東西4.7m、南北4.6mのほぼU形プランを呈し、深さ35cmを測る（第8図）。堆積土は6層に大別される。住居跡内中央から西側と東側に扁平な河原石を利用した敷石がみられる。床面は平坦で軟かい。ガ跡、周溝、柱穴については調査途中のため詳細は不明である。遺物は堆積土、床面より繩文土器片、石器が多量に出土し、特に4層中より多く出土した（第10図1~10、12~16）。これらの土器は、その特徴より繩文時代中期末葉（大木10式期）に属するものである。

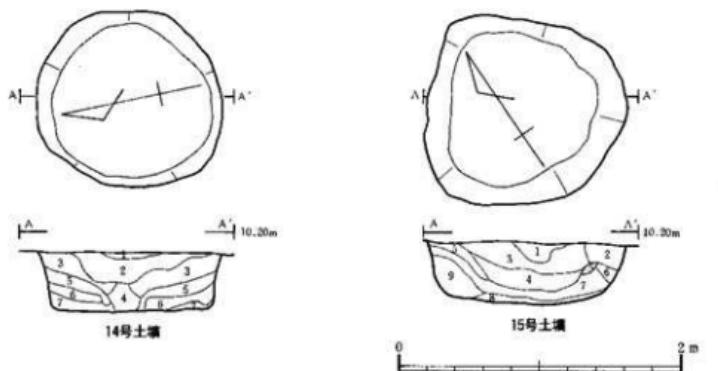
1号炉跡は第X層中で検出されたが住居跡のプラン、柱穴等は不明であった。炉跡は50×50cmの規模で、河原石を「コ」の字形に配した炉で、炉内より繩文土器の底部片が出土した。

土壤 第X・XI層上面で5基検出され、前者は12・13号土壙、後者か14~16号土壙である。12号土壙は南北1.7m、東西60cmの隅丸長方形を呈し、深さ80cmを測る。断面形は逆台形である。13号上壙は調査区南端に検出されたため北側半分を調査した。径1.5m、深さ40cmを測り、円形



層位	土 型	土 性	側 面 性
1 a	10 YR 5d に近い黄褐色	粘土質シルト	上部岩と炭化物を含む
1 b	10 YR 5d 黄褐色	粘土質シルト	炭化物を含む
2	10 YR 5d 黄褐色	シルト	
3	10 YR 5d 黄褐色	シルト	
4 a	10 YR 5d 黄褐色	シルト	炭化物、土器片、鐵、骨を含む
4 b	10 YR 5d 黄褐色	シルト	炭化物多量に含む
4 c	10 YR 5d 黄褐色	シルト	炭化物・バミスを含む
4 d	10 YR 5d 灰 色	砂質シルト	炭化物を含む
5 a	10 YR 5d 灰 色	シルト	
5 b	10 YR 5d 灰 色	砂質シルト	
5 c	10 YR 5d 灰 色	シルト	炭化物を含む
6 a	10 YR 5d 黄褐色	粘土質シルト	
6 b	10 YR 5d 黄褐色	粘土質シルト	
6 c	10 YR 5d 灰 色	砂質シルト	
6 d	10 YR 5d 灰 色	シルト	

第8図 6号住居跡



層位	上色	下色	備考
1	10YR 5/2	黒褐色	シルト 灰化物を含む
2	10YR 5/6	暗褐色	砂質シルト 灰化物を多く含む
3	10YR 5/6	褐色	砂質シルト 灰化物を含む
4	10YR 5/6	に赤い斑駁色	粘土質シルト
5	10YR 5/6	に赤い斑駁色	灰化物を含む
6	10YR 5/4	褐色	砂質シルト
7	10YR 5/6	褐色	青色小粒子を含む

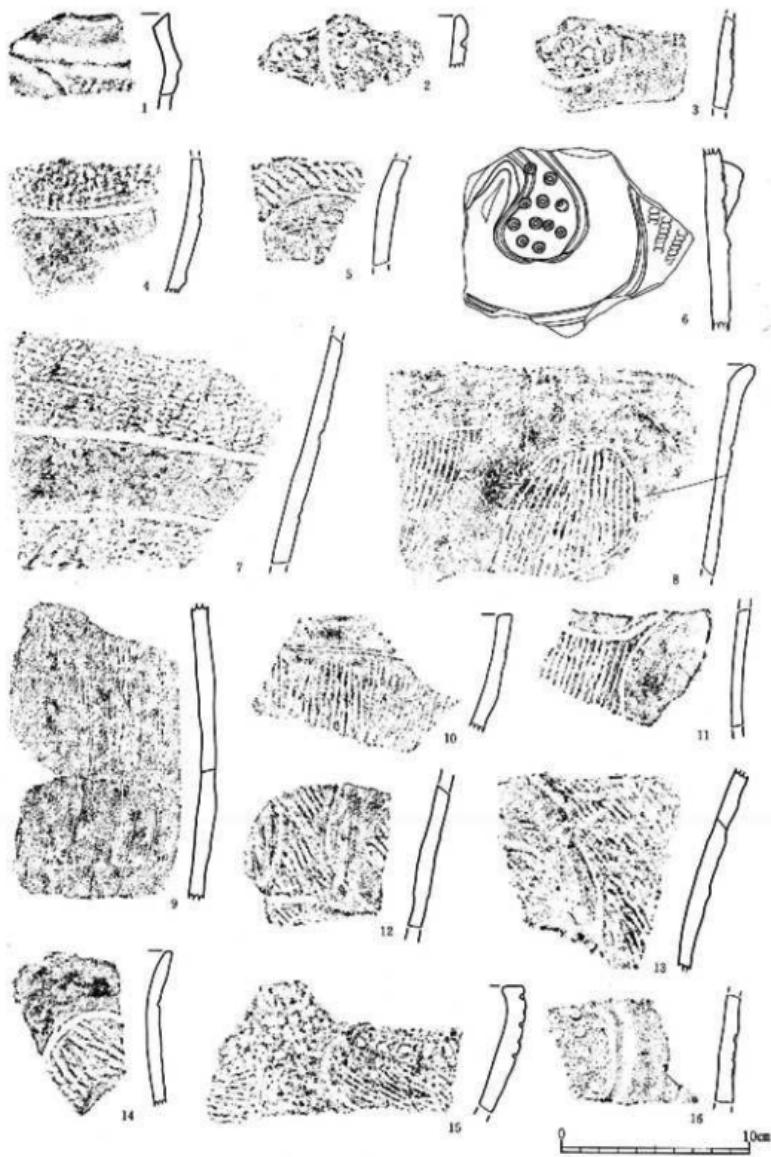
層位	上色	下色	備考
1	10YR 5/6	褐色	粘土質シルト
2	10YR 5/6	暗褐色	シルト 灰化物、鐵土を含む
3	10YR 5/6	に赤い斑駁色	粘土質シルト 灰化物、下色: 鉄土を含む
4	10YR 5/6	褐色	粘土質シルト
5	10YR 5/6	褐色	粘土質シルト 灰化物、鐵土を含む
6	10YR 5/6	褐色	砂質シルト
7	10YR 5/6	褐色	砂質シルト
8	10YR 5/6	褐色	砂質シルト
9	10YR 5/6	に赤い斑駁色	砂質シルト

第9図 14号・15号土壤

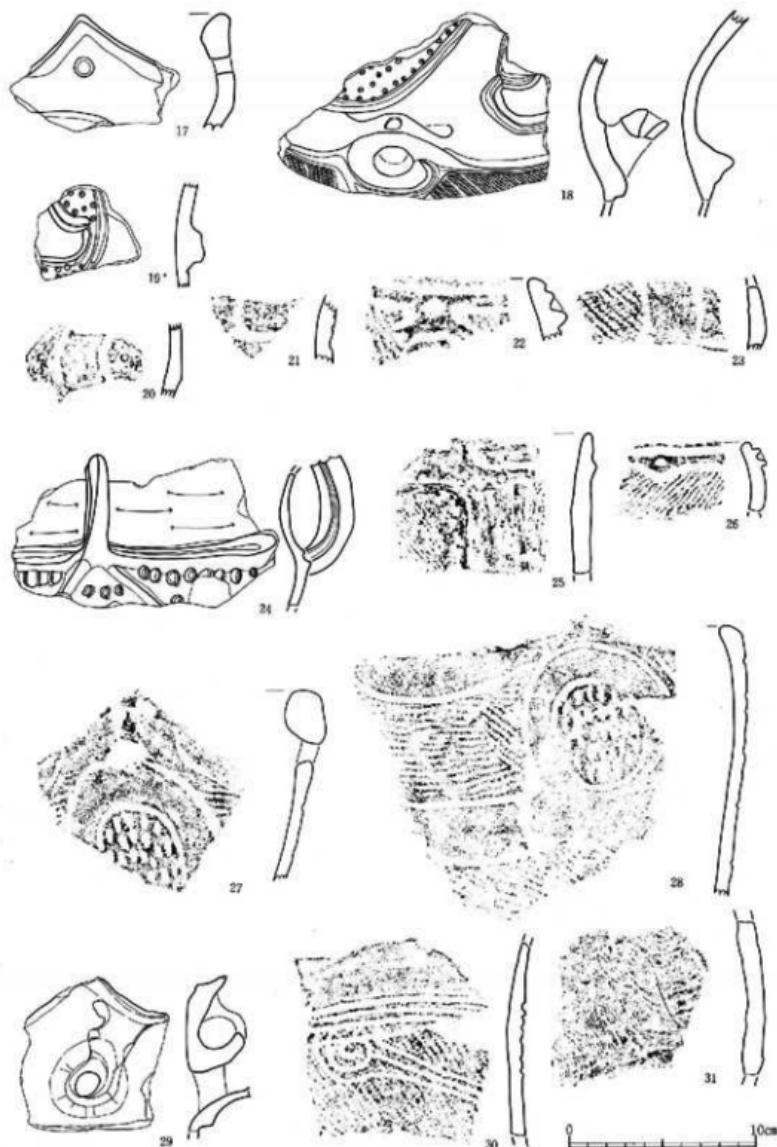
プランを呈すと考えられる。14号土壤は1.2×1.3mの円形プランで、深さ40cmを測る。15号土壤は1.4×1.3mのほぼ円形プランで、深さ40cmを測る。堆積土中より彩色された縄文土器片(大木10式期)が出土した。

遺物包含層 第X・XI層より遺物が多く出土した。殆どが縄文土器片であり、他に石器、礫が出土した。縄文土器は中期中葉の大木8b式から後期初頭にかけての時期に属し、大半は中期末葉から後期初頭に属するものである。

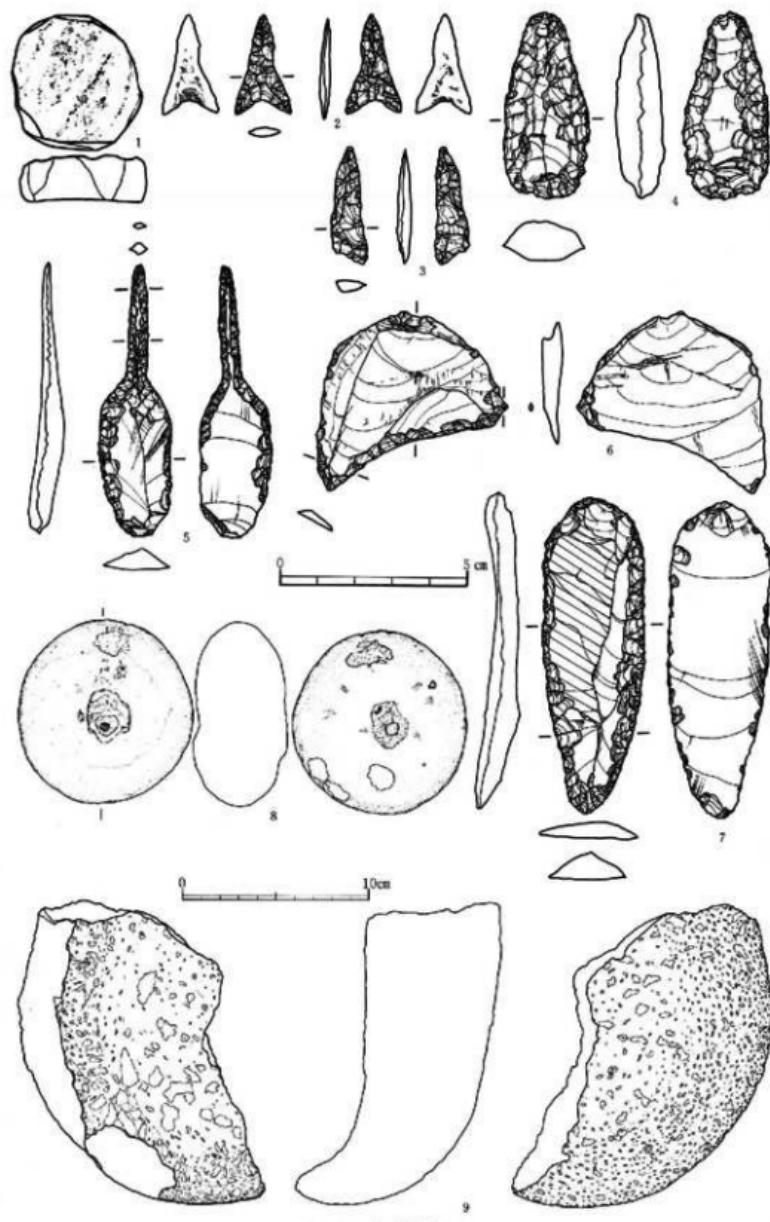
以上のことより、本遺跡は六反田遺跡、山口遺跡の調査と同様に重層構造の遺跡である。今回の調査によって、縄文時代中期から平安時代以降にかけての各種の遺構と遺物が発見された。特にこの地区における縄文時代の住居跡の発見は、六反田遺跡に次ぐものであり、貴重な資料を提示したものといえる。



第10図 出土遺物(2)



第11図 出土遺物(3)



第12図 出土遺物(4)

写真 1 調査前近景
(西→東)



写真 2 平安時代以降の
造構全景
(西→東)



写真 3 1号住居跡全景
(西→東)



写真4 1号住居跡内
遺物出土状況
(西→東)



写真5 2号住居跡全景
(東→西)



写真6 古墳時代の遺構
全景
(西→東)



写真 7 4号住居跡全景
(北→南)



写真 8 1号竪穴遺構
全景
(南→北)

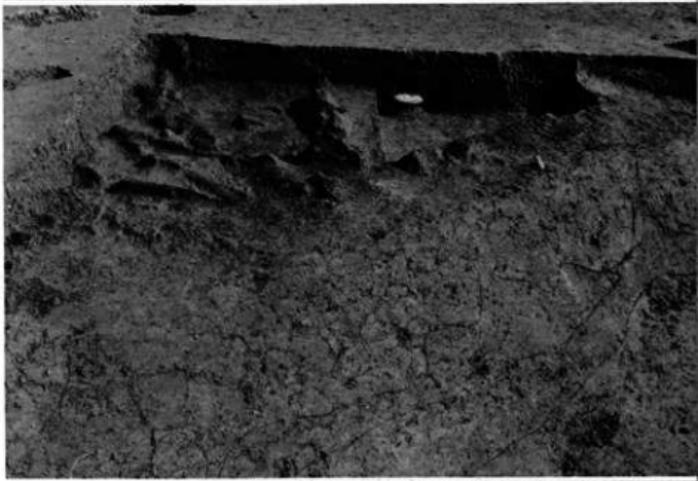


写真 9 繩文時代の調査区
全景 (調査中)
(東→西)



写真10 6号住居跡内
遺物出土状況
(西→東)



写真11 6号住居跡全景
(調査途中)
(西→東)



写真12 12号・13号土壤
全景
(東→西)



写真13 14号土墻全景
(東→西)



写真14 15号土墻全景
(東→西)

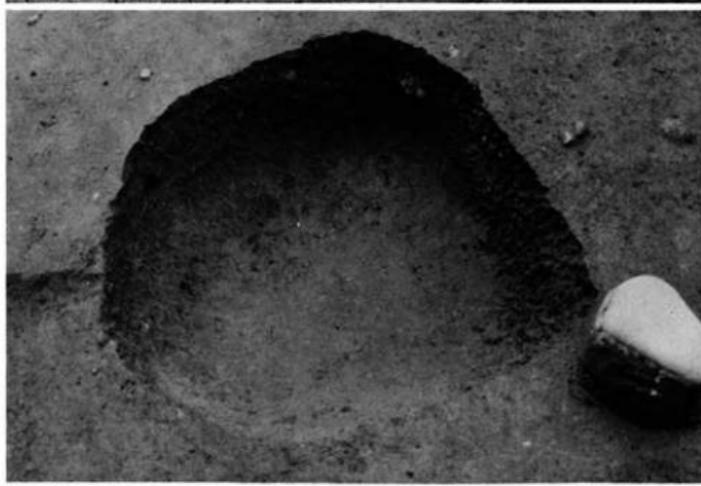


写真15 16号土墻全景
(西→東)

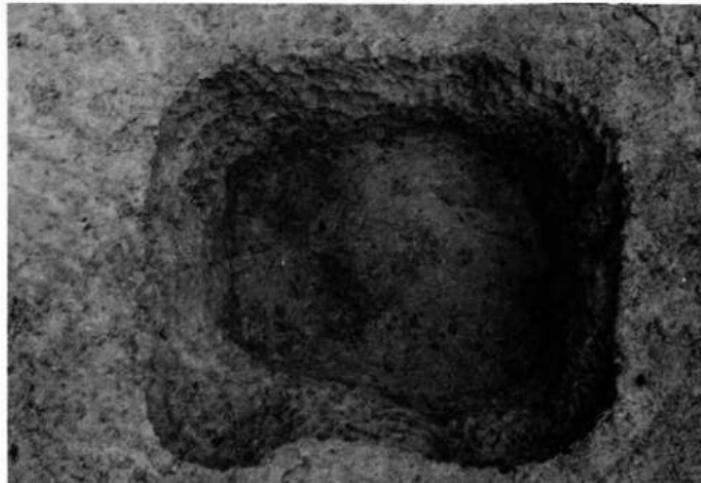




写真16 出土遺物(1)

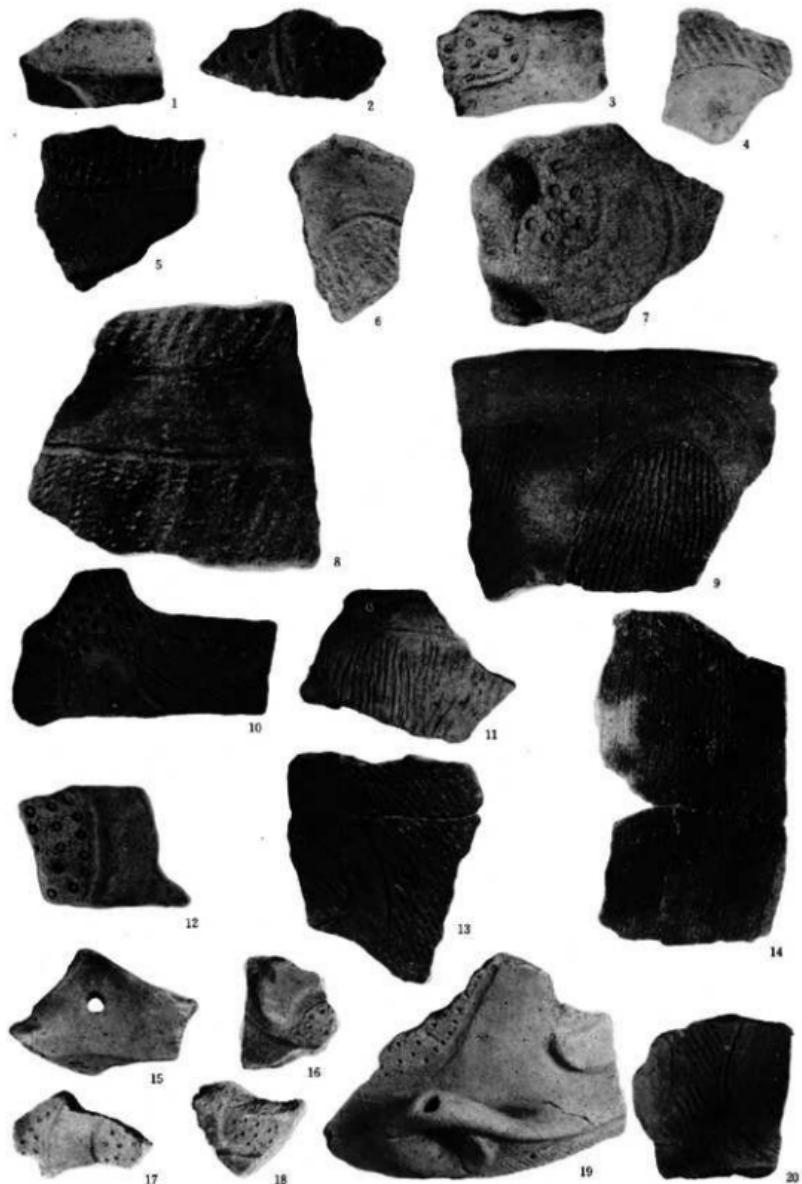


写真17 出土遺物(2)

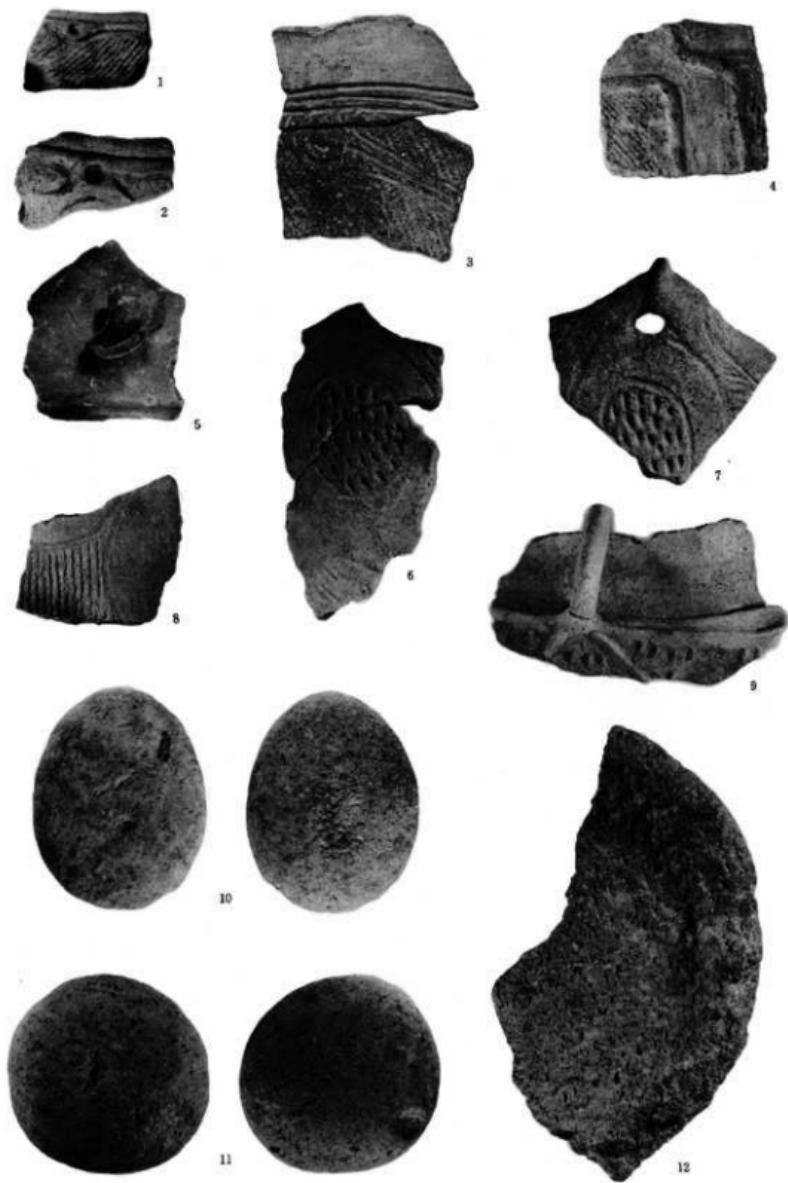


写真18 出土遺物(3)

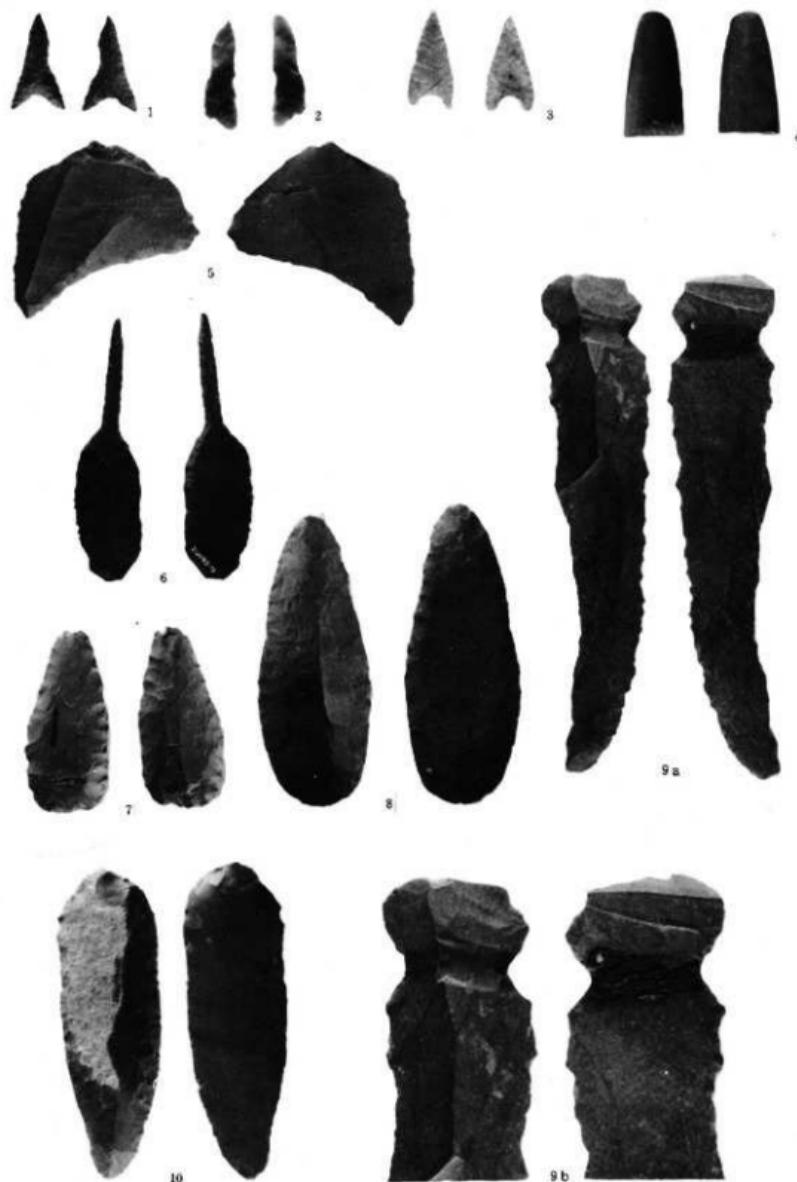


写真19 出土遺物(4)

IV. 六反田遺跡 (C-197)

1. 遺跡の立地

六反田遺跡は、名取川下流域の自然堤防上に立地し北を旧荒川によって区切られる総面積約40,000m²の沖積地に形成された重層構造の遺跡である。昭和51~53年度の3次にわたる調査によって、縄文時代中期中葉・後期初頭・後期後葉・晚期、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、江戸時代と長い間利用されてきたことが明らかになっている。

今回の調査区の面積は約450m² (50m × 9m) で、前回の調査区の西方約15mに位置し、現在は畠地となっており、標高は11.7mを測る。

2. 調査の方法

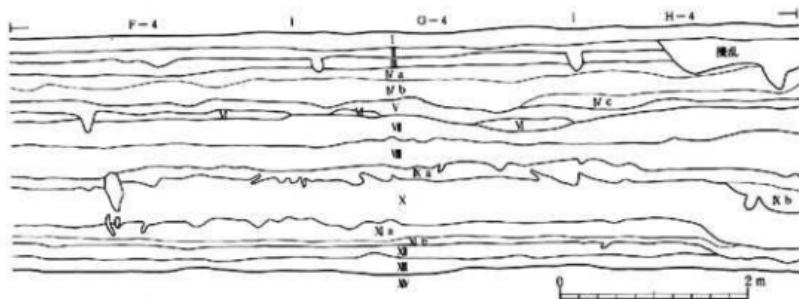
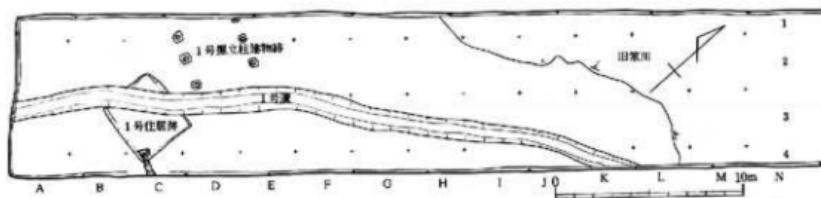
発掘調査範囲は、共同住宅建設によって遺跡が破壊される区域を全面発掘することを原則とした。耕作土を重機で排除した結果、発掘区の北側約4割が旧荒川により削られていることが確認されたので、調査対象から外すこととした。3m × 3mのグリッドを設定し、その表示は南北にアルファベット、東西に数字を用いることとし、南西の隅を基点とした。(第3図)

3. 調査の概要

基本層位はI~XV層確認された。XII層の縄文時代後期の層は、前回の調査区の9層と対比されるが、90~110cm下がる。よって前回の調査区が微高地状になっており、本調査区はそこから傾斜しているといえる。古墳時代の土師器の出土した層になると、前述の傾斜がよりゆるやかになっている。

今回の調査で確認された主な遺構として、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、溝1条があげられる。竪穴住居跡はIVa層上面で検出されている。平面形は3.6m × 3.2mの方形で、壁は高く60cmに達する。カマドは東南隅に検出されたが残存状況は悪く、ほとんど原形をとどめていないが、21cmの高さを有する石製の支脚が直立して出土した。床面からは、ロクロ使用の土師器の甕と礫が出土している。よってこの竪穴住居跡は平安時代に属するものである。掘立柱建物跡はVI層上面で検出され、1間 × 2間以上で、さらに西側に延びる可能性がある。時期は明らかでない。1号溝はⅩ層上面で検出され、調査区を南北に縱断している。上端1.15m、下端0.6m、深さ0.5mの逆台形の断面を呈し、竪穴住居跡を切っている。

遺物としては、須恵器、土師器、縄文土器、打製石器、石碗、石製品等が出土しており、平箱で約20箱になる。そのうち、XII層から出土した縄文土器は、縄文時代後期初頭の時期があたえられ、その出土量は全体の半数を占め、B・C-2・3、F-3各グリッドに集中している。しかし、遺構は検出されなかった。その他にXII層からは、前回の調査の際に出土した磨製石斧と同様のものが出土している。

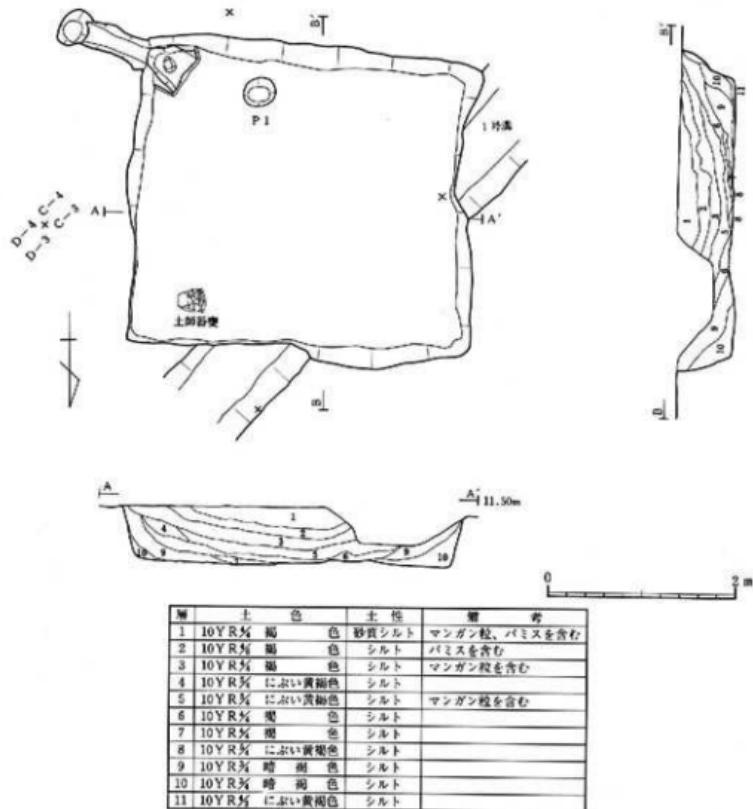


層位	土色	土性	備考
I	10YR 5/6 細褐色	シルト	耕作土、第一層
II	10YR 5/6 黄褐色	シルト	耕作土、第二層
III	10YR 5/6 黄褐色	シルト	はとんど鐵化鉄が占めている
IV a	10YR 5/6 にほい黄褐色	シルト	炭化物、マンガン鉱を含む
IV b	10YR 5/6 黄褐色	シルト	マンガン鉱、白色小粒子(粗砂)を含む
V c	10YR 5/6 黄褐色	シルト	マンガン鉱を含む
V	10YR 5/6 黄褐色	砂質シルト	粗砂を含む
VI	2.5Y 5/6 黑褐色	粘土質シルト	2.5Y 5/6 の粘土を含む
VII	10YR 5/6 にほい黄褐色	粘土質シルト	
VIII	10YR 5/6 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む
IX a	10YR 5/6 細褐色	シルト	炭化物とバミスを少量含む
IX b	10YR 5/6 細褐色	シルト	
X	10YR 5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物とバミスを少無含む
X a	10YR 5/6 褐褐色	シルト	遊土粒を少無と炭化物を含む
X b	10YR 5/6 褐褐色	シルト	炭化物を多く含む
XI	10YR 5/6 細褐色	粘土質シルト	炭化物を多量、純土を少量含む
XII	10YR 5/6 細褐色	粘土質シルト	白色小粒子を多量に含む
XIII	10YR 5/6 黄褐色	粗砂	

第13図 全体図・基本層序



写真20 基本層序
(西→東)



第14図 1号住居跡



写真21 1号住居跡全景 (東→西)



写真22
1号住居跡遺物出土状況

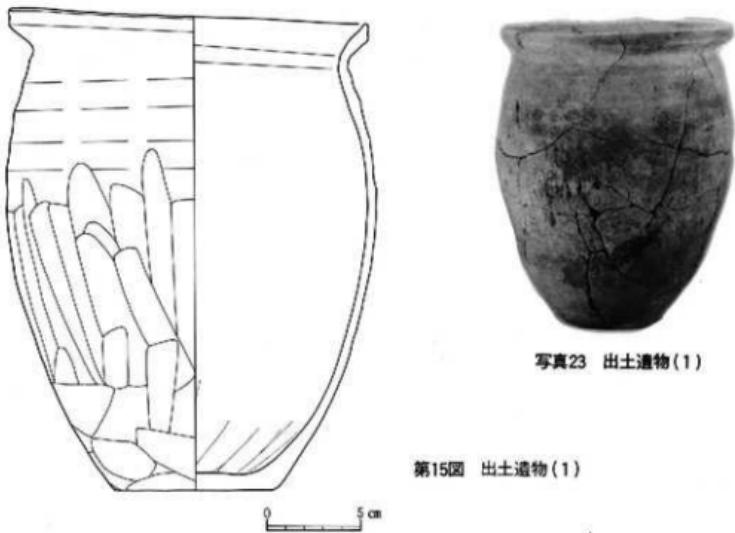
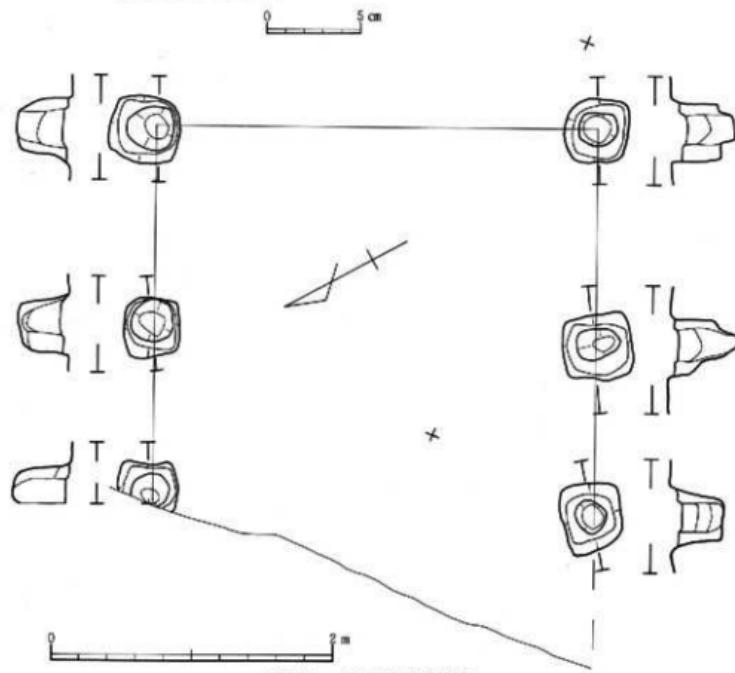
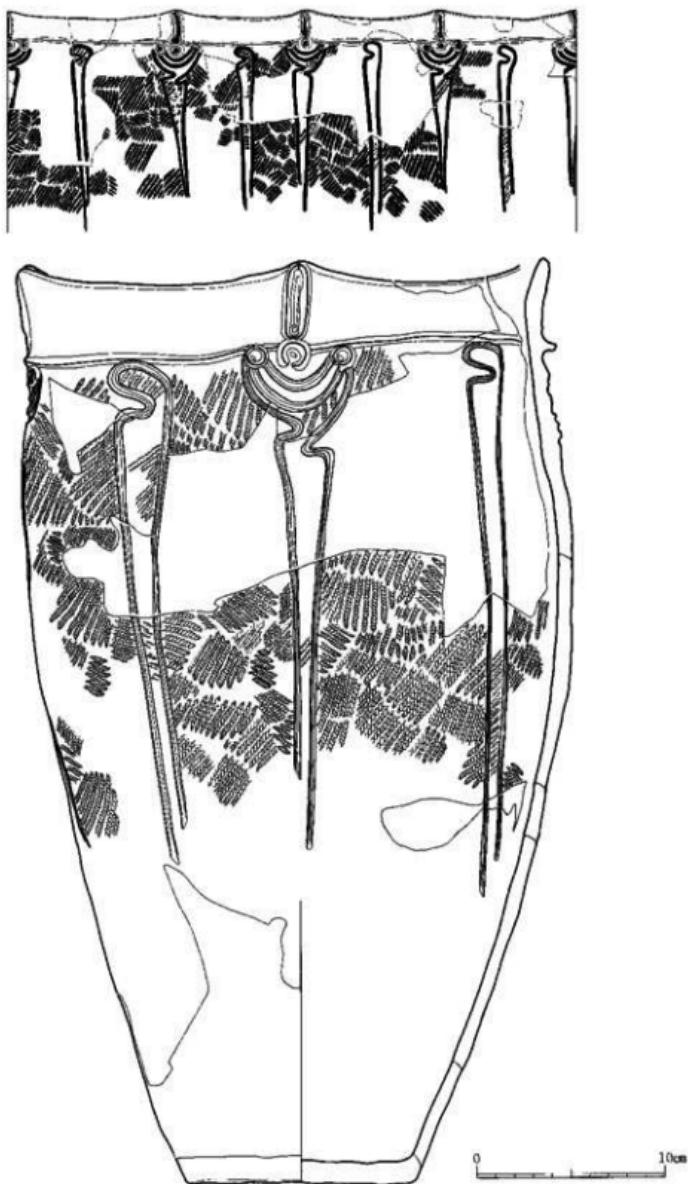


写真23 出土遺物(1)

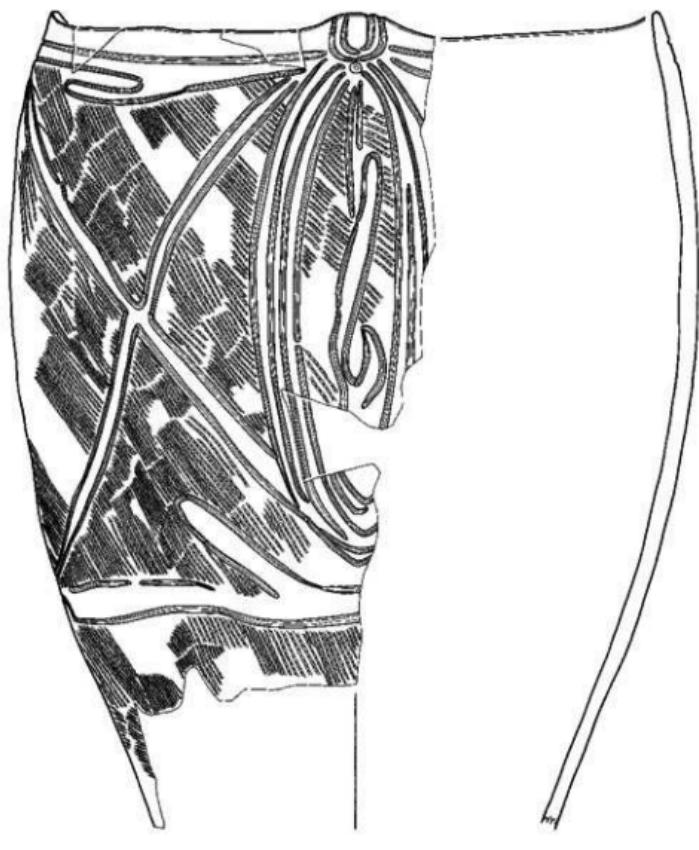
第15図 出土遺物(1)



第16図 1号振立柱建物跡

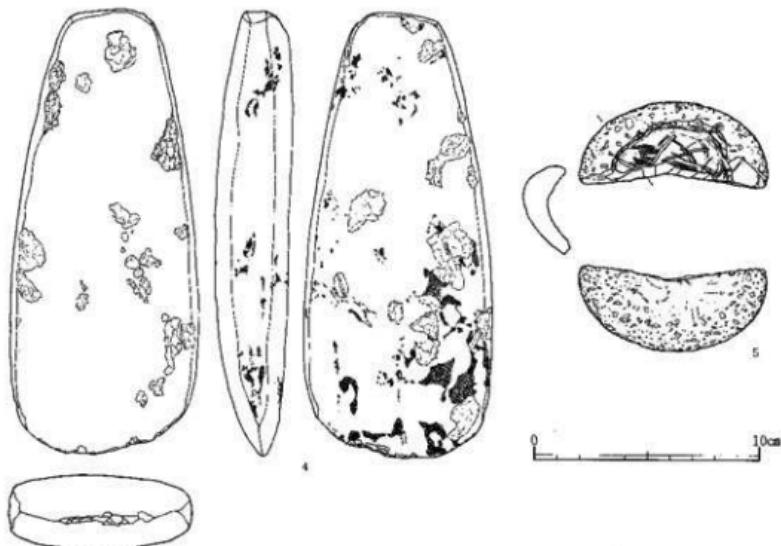
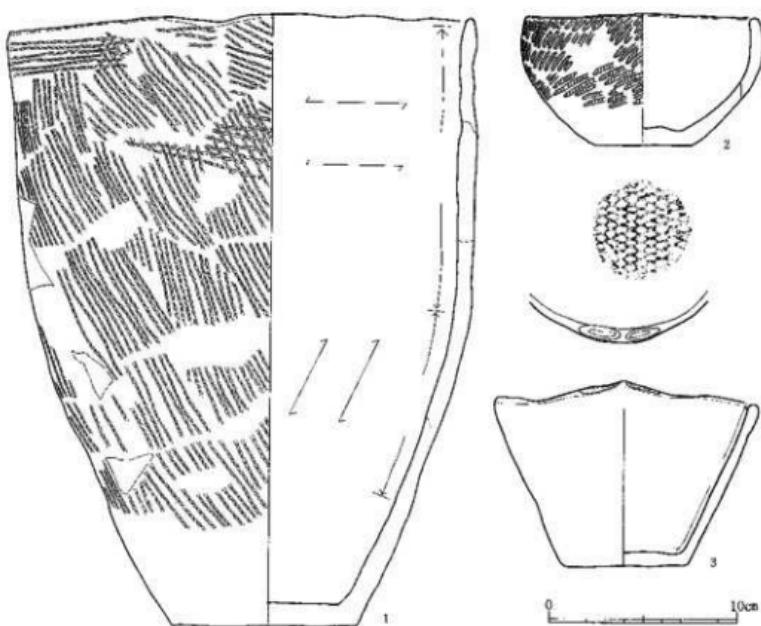


第17図 出土遺物(2)



0 10cm

第18図 出土遺物(3)



第19圖 出土遺物(4)



写真24 出土遺物(2)

V. 山口遺跡 (C-233)

1. 遺跡の立地

山口遺跡は長町駅より南西約2kmに位置し、名取川が形成した自然堤防上に立地する。標高は11~12mである。本遺跡のすぐ南側には旧荒川が東流し、北側には後背湿地が広がっている。

調査対象区域は、高速鉄道の起点七北田より13,405m~560mの本線敷部分(幅約12m、長155m、面積1,860m²)である。この区域は本遺跡の東端部及び隣接地域にあたる。その立地は南側約35mが自然堤防、北側約120mが後背湿地である。土地区画整理事業により1~2mの盛土がなされているが、旧水田面の標高は10~11mで北へ向かい徐々に低下している。近隣に泉崎浦・袋東・六反田・下ノ内・伊古田遺跡が存在する。

2. 調査の方法

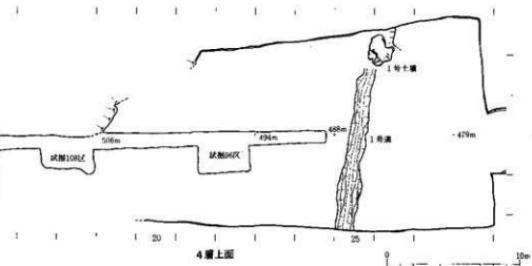
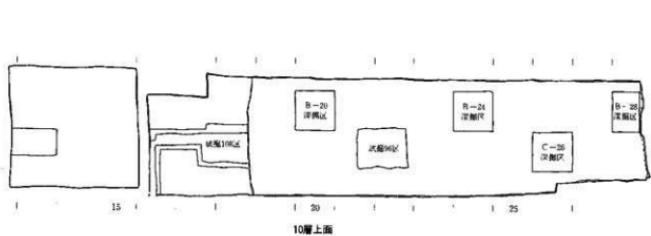
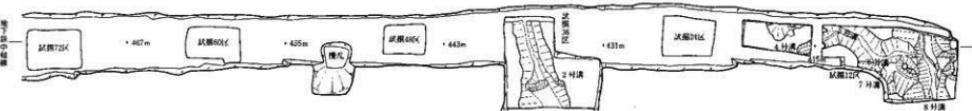
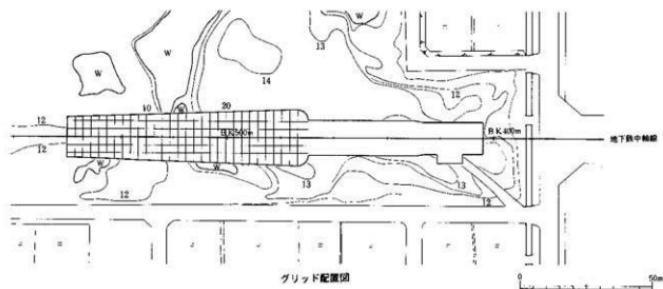
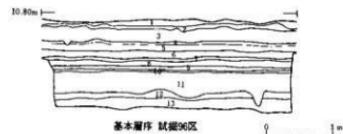
13,405m~525m間の試掘区(3×4m、9カ所)の調査結果と、525~560m間の表土層除去時の遺物の分布状況から、両区間に13,560mを基準線として東西にA~E、南北に1~28とする3×3mグリッドを設定して調査を行った。ただし525~560m間は来年度調査予定部分である。さらに試掘12・36区で溝状遺構が検出されたため拡張した。

3. 調査概要

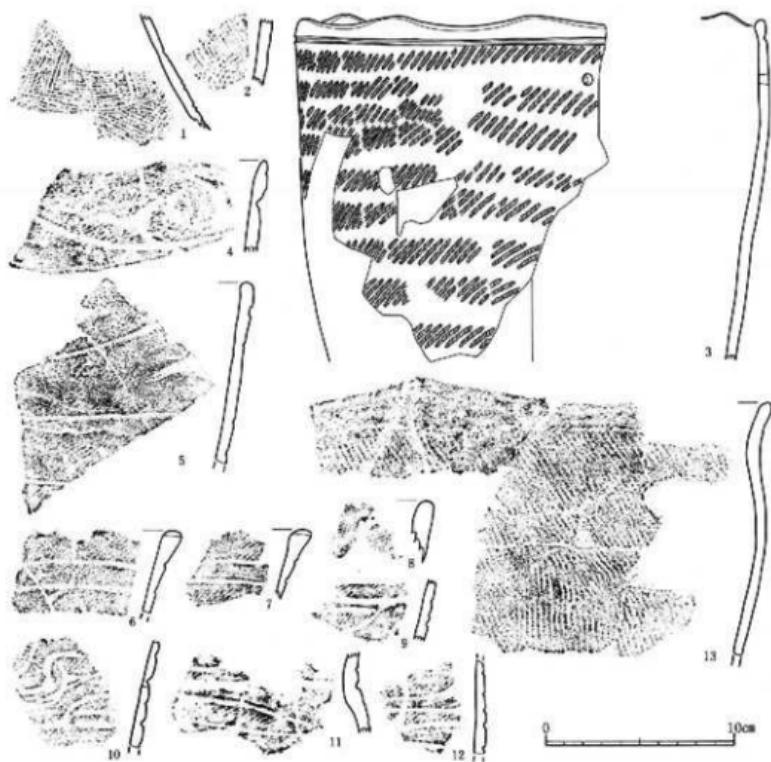
基本層位はI~III層まで確認された。III層以下はグライ化の進んだ緑灰色系の無遺物層で、調査は廻層を検出した段階で終了している。VI層以下は多量にスクモを含む粘性の強い粘土層で、この一帯が以前湿地であった状況を示している。III層から弥生時代の遺物が出土し、X~XI層より縄文時代の遺物が出土した。さらにIV・X・XI層上面で溝が検出されている。

弥生時代：遺物は20~24列にかけて散在していた。土器片50余点、石器3点出土し、うち平行工具による沈線文の土器片(第21図1、2)が11点ある。これらは桜井式に比定されることから、III層は弥生時代後期の包含層と考えられる。IV層上面で1号溝が検出され埋土より石器(第21図14)、壺の口縁部片(天王山式?)1点が出土した。性格は不明である。

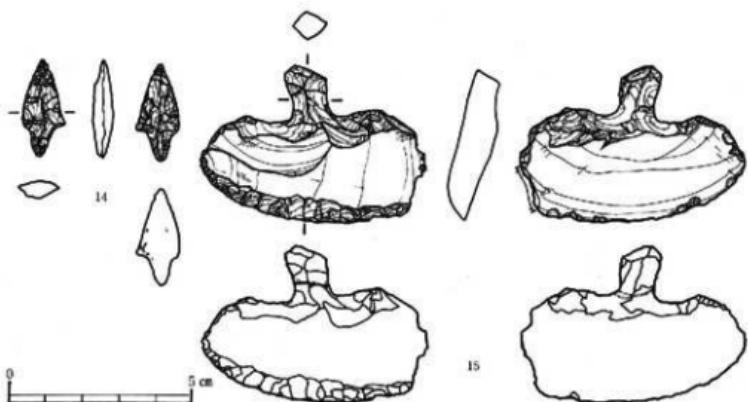
縄文時代：X~XI層から土器片40数点、石器2点が出土した(第21図3~13、15)。大半が破片である。3~12はX層出土で後期末葉の時期である。13はXI層出土で大きく後期に比定されるものである。III層からは破片が1点出土したのみである。X~XI層は縄文時代後期の包含層と考えられる。2~4~8号溝は、堆積状況・形態より人為的なものと考えられず、湿地における小河川の可能性が高い。その時期はIX層下で検出されX層以下を掘り込む状態であることから縄文時代後期~弥生時代の間に位置付けられよう。



第20図 グリッド配置図・全体図・基本順序



0 10cm



第21図 出土遺物

写真25 3層調査終了全景
(南→北)



写真26 1号溝全景 (東→西)



写真27 3～8号溝全景
(南→北)



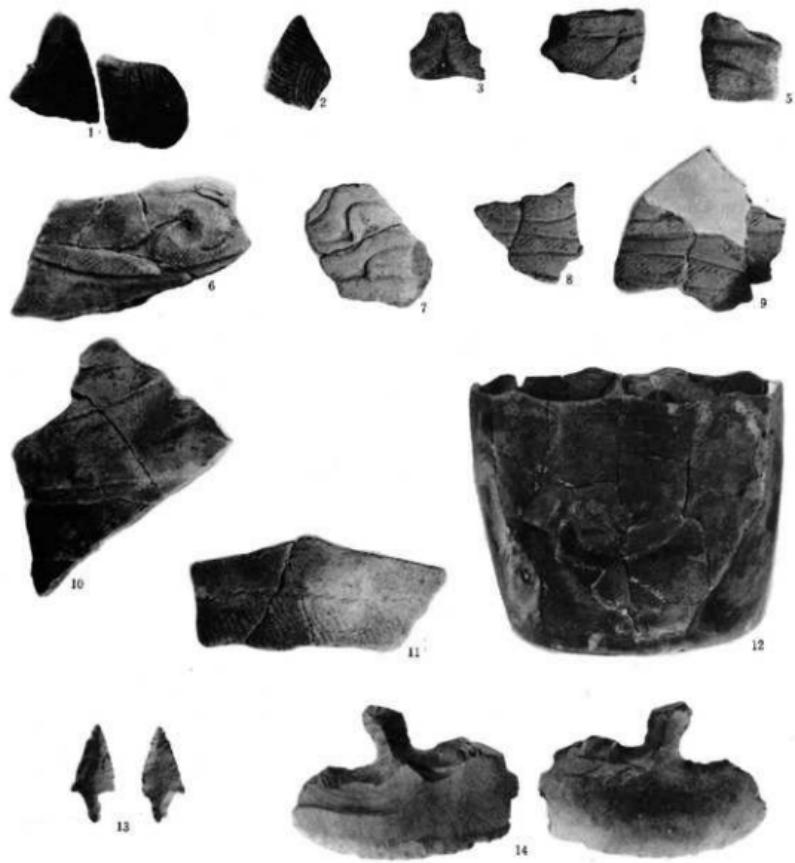


写真28 出土遺物

VII. 五本松窯跡分布調査 (C-403)

1. はじめに

仙台市北部にある台ノ原・小田原丘陵は、そのほぼ全域が古代の窯業地帯として全国的にも知られているところであり、仙台市で高速鉄道建設が具体化していくにおよんで、その路線が台ノ原、瓦山地区を通過することが発表された。

ところで、この地区には五本松窯跡、堤町窯跡など、周知の遺跡が数ヶ所あり、建設工事の工法などとも検討をした結果、五本松窯跡が造営されている傾斜地は一部開削、ほとんどが瓦山駅用地などのため埋め立てられ、また、他の窯跡については、丘陵を山岳トンネル掘削工法で貫通させるため影響がないことがわかった。

そこで今回は、五本松窯跡だけにしぼって、その窯跡範囲内に、何群、どこの地点に存在するかに主眼をおいて、ボーリング調査と掘削調査を並用した分布調査を実施した。

2. 位置と立地

仙台市五本松の森林公園内に所在する。窯跡の分布は東側から南側斜面、ならびに台原中学校付近まで確認できる。

3. 現状と範囲

大部分が森林公園内の林地であるが、一部駐車場建設のため破壊された。台原中学校通用門付近もかなり窯跡が削平された。今回の分布調査ではA～F地点の6ヶ所で窯跡を確認あるいは推定できた。

4. 地点概略

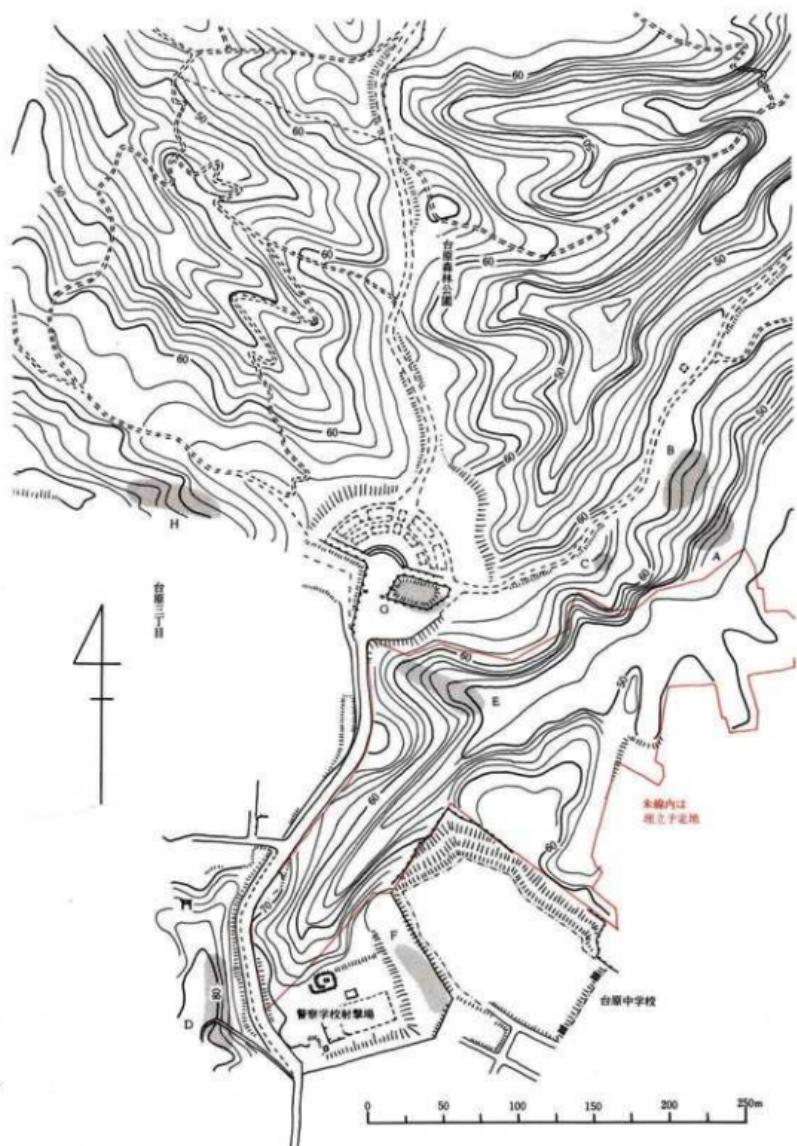
A：遊歩道よりもっと下った排水路と接する付近である。同一等高線に沿って幅10～15mに炭、焼土の分布が見られた。平坦部において多数の瓦が出土し、窯跡に関連する全ての遺構が残っていると思われる。

B：遊歩道の直下、A地点の直上に当たる。斜面なりに30m程の範囲で瓦、炭、焼土の分布が見られ、住居跡と思われる凹地もある。

C：大きな凹地があり、多量に炭が見られるほか、平瓦が数点出土している。B地点の南側に当たる。

D：射撃場と道路をはさんだ西側にある。東向きの緩い斜面に沿って、20m程の範囲に多量の炭、焼土、瓦が散布する。平坦部にも瓦が出土し、灰原、工房跡ともに現存する可能性がある。

E：森林公園駐車場の東側の急な谷沿いに瓦の散布が見られた。一部は先に仙台市で調査したG地点からの落下物とも考えられるが、平坦地もあり、注意が必要である。(注)



第22図 五本松跡分布図



写真29
五本松窯跡 E 地点の
現状

F：射撃場の東側丘陵の上で、民家の背後地になる。スサ入り粘土の窯跡の焼壁が確認できる。その数は4基程と推定される。

5. 学術的所見

- (1) 出土瓦は連珠文軒平瓦と一枚作り平瓦、玉縁付きの丸瓦である。平瓦には側端が若干もありあがるものもある。多賀城Ⅲ期の瓦である。
- (2) その他の遺物では、甕、坏片があるが、器形のわかるものはない。
- (3) E地点を除き、他の地点は標高50mの等高線以上に存在している。
- (4) 分布調査を行ったのは森林公園の一部であり、今回確認できたA～F、既知の2地点(G、H)の合せて8地点以外にも窯跡の分布が充分考えられる。

6. 高速鉄道建設工事との関連

- (1) E地点の調査を行う必要がある。(注)
- (2) D地点については、高速鉄道建設工事には直接関係がないが、都市計画街路となっており、その工事の際には調査を必要とする。

注：昭和57年2月15、16日。E地点について再調査を実施して検討した結果、平坦面等には窯跡、住居跡などの遺構は認められず、この沢から発見される瓦などの遺物はG地点からの落物と考えられる。よって新年度におけるE地点の発掘調査は不要と判断した。

職員録

社会教育課
 課長 永野昌一
 主幹 早坂春一
 文化財管理係
 係長 鈴木昭三郎
 主査 鈴木高文
 (10月1日昇勤)
 主事 山口宏
 渡辺洋
 文化財調査係
 係長(兼) 早坂春一
 教諭 佐藤謙
 渡辺忠彦
 佐藤裕
 加藤正範
 上事 田中別和
 結城信一
 成瀬茂
 諭青滔一
 教主事 斎藤みどり
 木村浩二
 篠原信彦
 佐藤洋
 金森安孝
 佐藤中二
 吉岡平
 工藤哲司
 渡部弘美
 半沢光湖
 斎野裕彦
 長島栄一
 荒井格
 臨時職員 高橋勝也

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物雲座下セコイア化石林調査報告書 (昭和39年4月)
 第2集 仙台城 (昭和42年3月)
 第3集 仙台市燕沢寺横六市境群調査報告書 (昭和43年3月)
 第4集 史跡遺跡奥州分寺跡環境整備並びに調査報告書 (昭和44年3月)
 第5集 仙台市南小泉法師塚古墳調査報告書 (昭和47年8月)
 第6集 仙台市荒巻五本松古墳跡発掘調査報告書 (昭和48年10月)
 第7集 仙台市富沢町古墳発掘調査報告書 (昭和49年3月)
 第8集 仙台市向山古墳櫻木大群発掘調査報告書 (昭和49年5月)
 第9集 仙台市猿田町宗寺跡横穴群発掘調査報告書 (昭和51年3月)
 第10集 仙台市中田町安久連跡発掘調査概報 (昭和51年3月)
 第11集 史跡遺跡堀古墳環境整備予備調査概報 (昭和51年3月)
 第12集 史跡遺跡堀古墳環境整備第二次予備調査概報 (昭和52年3月)
 第13集 南小泉遺跡一範囲調査報告書 (昭和53年3月)
 第14集 保土跡発掘調査報告書 (昭和54年3月)
 第15集 史跡遺跡古墳昭和53年度環境整備予備調査概報 (昭和54年3月)
 第16集 六反田遺跡発掘調査 (第2・3次) のあらまし (昭和54年3月)
 第17集 北屋敷遺跡 (昭和54年3月)
 第18集 井川遺跡発掘調査報告書 (昭和55年3月)
 第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書 (昭和55年3月)
 第20集 史跡遺跡堀古墳昭和54年度環境整備予備調査概報 (昭和55年3月)
 第21集 仙台市兩堀間関跡調査報告書 (昭和55年3月)
 第22集 経ヶ峯 (昭和55年3月)
 第23集 年報1 (昭和55年3月)
 第24集 今泉城跡発掘調査報告書 (昭和55年8月)
 第25集 三神手遺跡発掘調査報告書 (昭和55年12月)
 第26集 史跡遺跡堀古墳昭和55年度環境整備予備調査概報 (昭和56年3月)
 第27集 史跡奥州分寺跡昭和55年度発掘調査概報 (昭和56年3月)
 第28集 年報2 (昭和56年3月)
 第29集 都山遺跡I・昭和55年度発掘調査概報 (昭和56年3月)
 第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報 (昭和56年3月)
 第31集 仙台市晴荷関係跡調査報告書II (昭和56年3月)
 第32集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書 (昭和56年3月)
 第33集 山口追跡発掘調査報告書 (昭和56年3月)
 第34集 六反田遺跡発掘調査報告書 (昭和56年12月)
 第35集 南小泉追跡都市計画道路建設工事関係第1次調査報告 (昭和57年3月)
 第36集 北前道跡 (昭和57年3月)
 第37集 仙台平野の遺跡群I (昭和57年3月)
 第38集 都山遺跡II・昭和56年度発掘調査概報 (昭和57年3月)
 第39集 燕沢追跡発掘調査報告書 (昭和57年3月)
 第40集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報I (昭和57年3月)

仙台市文化財調査報告書第40集

昭和56年度

仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報I

昭和57年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市国分町3-7-1

仙台市教育委員会社会教育課

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市立町24-24 TEL.63-1166

